

おいしく
たのしく
すこやかに



森永製菓株式会社 CSR報告書 2019

編集方針

森永製菓グループは、企業理念に基づき当社グループが果たすべき社会的責任 (CSR: Corporate Social Responsibility) に対する姿勢や取り組みについてステークホルダーのみなさまにご理解いただくために、2014年度から「森永製菓株式会社 CSR報告書」を発行しています。

2019年度は、2018年度に策定したCSR基本方針で掲げた「食」を通じた持続可能な社会の実現のための3つの柱、①「食」を通じた価値の提供 ②次世代育成 ③地球環境・社会への配慮について、森永製菓グループが目指す姿や、さまざまなステークホルダーのみなさまと連携して行っている具体的な取り組みを掲載しています。

本報告書によりステークホルダーのみなさまに森永製菓グループのCSR活動をご理解いただき、より深い信頼関係を築きながら、CSR活動を推進していきたいと考えています。

報告対象範囲

本報告書は主として森永製菓株式会社を対象としています。ただし環境データにつきましては、当社の4工場と、生産関係会社5社のグループ合計実績と海外生産拠点の実績となります。

森永製菓4工場：鶴見工場、小山工場、三島工場、中京工場

生産関係会社：高崎森永株式会社、森永エンゼルデザート株式会社、森永デザート株式会社、森永スナック食品株式会社、森永甲府フーズ株式会社

海外生産拠点：台湾森永製菓股份有限公司、森永食品(浙江)有限公司、Morinaga America Foods, Inc

報告対象期間

2018年4月1日～2019年3月31日

※一部2018年度以前の取り組みや2019年4月以降の活動報告も含んでいます。
※海外生産拠点の環境データは2018年1月1日～2018年12月31日のものです。

発行月

2019年10月(前回発行：2018年10月)

参照ガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」
- ISO26000(社会的責任に関する手引き)
- GRIスタンダード

ホームページでも森永製菓グループのCSR情報をご覧ください。



URL <http://www.morinaga.co.jp/company/csr/>

このレポートに関するお問い合わせ先

森永製菓株式会社
コーポレートコミュニケーション部
CSRグループ

TEL 03-3456-0143
FAX 03-3769-6129



目次

- 01-02 編集方針・目次
- 03-04 TOP MESSAGE
- 05-06 森永製菓グループ 価値創造の歩み
- 07-08 森永製菓グループ CSRの取り組みの流れ

09-12 **特集** **食べる人とつくる人をつなぐ**
森永製菓のチョコレート

- 13 **① 「食」を通じた価値の提供**
- 14 時代のニーズに沿った価値の提供
- 15 品質への取り組み
- 16 お客様満足のための取り組み



17-18 **② 次世代育成**

- 19 食育体験
- 20 自然体験・スポーツ体験



21 **③ 地球環境・社会への配慮**

- 22-23 環境マネジメント
▶森永製菓グループ環境方針…22
- 24 環境に配慮した商品開発
- 25 低炭素社会の実現
- 26 循環型社会の形成
- 27 事業活動における環境負荷(2018年度)
- 28 環境汚染物質の管理・削減促進、
生物多様性への取り組み



CSR活動の基盤

- 29-30 働きがいと成長
- 31 人権尊重
▶森永製菓グループ人権方針…31
- 32 持続可能なサプライチェーン・マネジメント
▶森永製菓グループ調達方針…32
- 33-34 ステークホルダーとの持続的信頼関係の構築
▶情報開示に関する基本方針…33
- 35-36 コーポレート・ガバナンス/コンプライアンス
- 37-38 CSR用語集
森永製菓株式会社の概要

森永製菓グループのCSR体系
3つの柱





**TOP
MESSAGE**

おいしく、
たのしく、
すこやかに



食を通じて世界の人々に価値と感動を提供したい

2019（令和元）年8月、森永製菓は創業120周年を迎えました。

お客様、株主のみなさまやお取引先、関係者各位全てのステークホルダーのみなさまに、心より感謝申し上げます。

創業者・森永太郎は1899（明治32）年、「日本の人々に栄養価が高くおいしい西洋菓子を届けたい」という夢を抱いて創業いたしました。私たちはその創業の精神を受け継ぎ、「おいしく、たのしく、すこやかに」のビジョンのもと、時代の変化やお客様のニーズにお応えしながらさまざまな商品を開発・販売してまいりました。

現在、森永製菓グループは菓子食品・冷菓・健康食品等の領域で事業を展開し、その価値と感動をより広くお届けするために、海外事業や新市場・新領域開拓にも積極的に取り組んでいます。

一方、世界では地球温暖化や気候変動、経済格差・貧困等、これら数々の課題に国際社会全体で向き合おうとしています。持続可能な社会を実現するための世界共通の目標として、国連に加盟する全ての国が「持続可能な開発目標（SDGs）」を採択し、これに取り組んでおり、これらは国際社会の公的機関のみならず各国の企業にも期待されることです。

私たちは、世界規模で取り組むこれらの課題に森永製菓グループとして向き合い、社会的責任（CSR）を果たして

いくために、持続可能な社会の実現に向けたCSR基本方針・CSR体系を昨年度新たに策定し、「食」を通じた価値の提供、次世代育成、地球環境・社会への配慮、について積極的に取り組む旨を明文化しました。これらの取り組みを推進するためには、森永製菓グループの従業員一人ひとりが原動力となる必要があります。

企業が持続的に成長し社会に貢献し続けるためには、従業員一人ひとりの“個を活かす”ことが大切であると考えます。多様な人材が集まり、それぞれが創業の精神に立ち、森永製菓グループとして社会に果たす役割と責任を考え、そこから生まれる「知の多様化」によってイノベーションを創出していく企業として、これまで以上に「ダイバーシティの推進」「健康経営」「働き方改革」にも積極的に取り組んでまいります。

私たちは、「食」を通じて世界の人々に価値と感動を提供し、社会に貢献する企業でありたいと願っています。これからも、時代と社会のニーズにお応えし、ステークホルダーのみなさまにお力を借りながら、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

今後とも、ご理解・ご支援をたまわりますようよろしくお願い申し上げます。

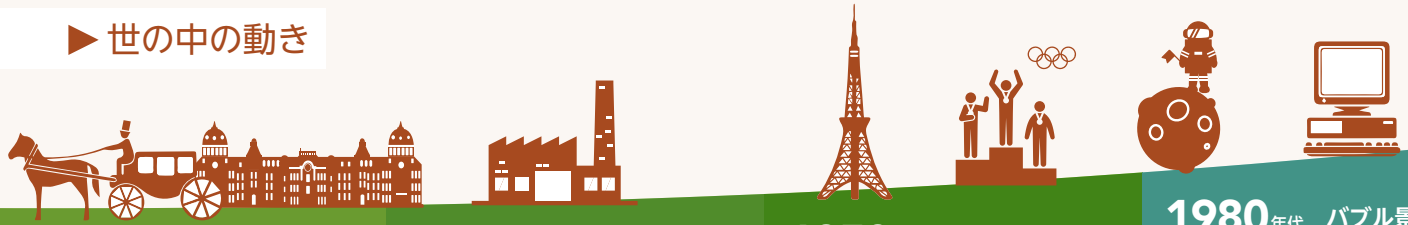
代表取締役社長

太田 栄二郎

森永製菓グループ 価値創造の歩み

森永製菓グループの歴史を商品や社会活動をとおして紹介します。

▶ 世の中の動き



1890年代 近代国家の幕開け

明治維新から30年を経て、近代的政治体制のもと、近代化・工業化が急速に進展。

明治

1920年代 産業の近代化

製造業や海運業が発展。大戦景気に沸くも、戦後は一気に景気が低迷。恐慌状態へ。

大正

1950年代 高度経済成長

白黒テレビ・洗濯機・冷蔵庫が「三種の神器」と呼ばれる。

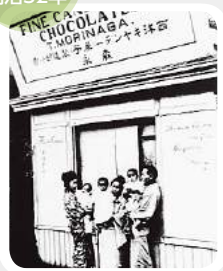
昭和

1980年代 バブル景気

円高ドル安が進行。大都市圏の地価や株価が急上昇し、バブル景気が発生。

平成

1899
明治32年



森永太郎がアメリカから帰国し、「森永西洋菓子製造所」創業

1919
大正8年



8時間労働制の導入
業界に先駆けて8時間労働制を導入、健康保険組合等職場環境整備にも早くから着手

1960
昭和35年



ベルマーク運動に参加
全ての子どもに等しく、豊かな教育環境を与えるための支援を開始

1986
昭和61年



新エンゼルマークを決定
森永のイニシャルのMを基本フォルムに、ほほえみながら未来に向かってはばたくエンゼルが誕生

1914
大正3年



ポケット用紙サック入り
ミルクキャラメル発売

1923
大正12年



マリービスケット発売

1967
昭和42年



チョコボール発売

1989
平成元年



アイスボックス発売

1918
大正7年



日本初のカカオ豆からの一貫製造による国産ミルクチョコレート発売

1972
昭和47年



チョコモナカ発売

1975
昭和50年



ハイチュウ発売

▶ 森永製菓グループの出来事



1990年代 バブル経済の崩壊

「価格破壊」が流行語に。共働き世帯数が専業主婦世帯数を上回る。



2000年代 情報化社会

SNSや動画配信サービス等が躍進。インターネットがコミュニケーションツールとして定着。



2010年代 社会課題への対応

健康志向の高まり。働き方改革やSDGsの発効等社会課題に対応する動きが増加。

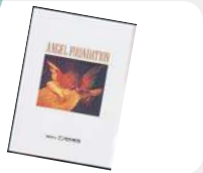


2020年
東京オリンピック・パラリンピック開催

より持続可能な社会へ。

令和

1991
平成3年



**一般財団法人
森永エンゼル財団設立**
エンゼルの精神を中心に据えて東西文化の歴史的研究を開始

2000
平成12年



**全4工場でISO14001
認証取得**
小山工場が日本の菓子業界で初めて認証を取得

2011
平成23年



**ハイチュウプレミアム
発売**

2017
平成29年



**「TAICHIRO MORINAGA」
の常設店をオープン**
“お菓子をこえる、「をかし」な体験を”をコンセプトに大丸神戸店に出店

1994
平成6年



**ウイダー inゼリー
発売**

2006
平成18年



**おいしいコラーゲン
ドリンク発売**

2013
平成25年



ミルクキャラメル100周年
ミルクキャラメル発売100周年を記念し、本社ビル壁面ラッピング等の取り組みを実施

2018
平成30年



**健康経営優良法人2018
～ホワイト500～**
従業員とその家族を対象に、積極的な健康保持・増進への取り組みを行い、ホワイト500に認定

1999
平成11年



**森永創業100周年
第1回リトルエンゼル
無人島探検隊実施**
21世紀の子どもたちの心とからだのすこやかな成長を応援する企画を開始

2008
平成20年



1チョコ for 1スマイル開始
チョコレートの売上の一部でカカオ生産国の子どもたちの教育環境整備を支援

2014
平成26年



**マクロビ派ビスケット
発売**

2019
令和元年

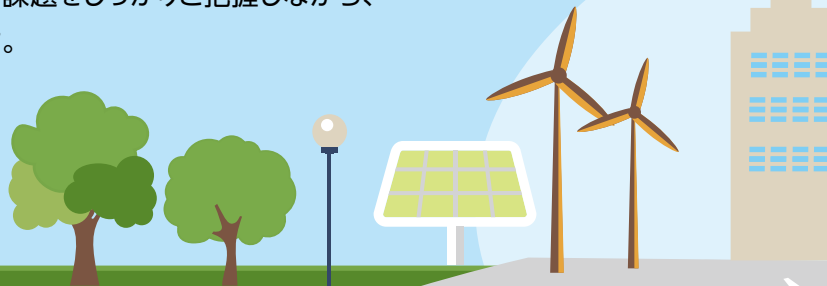
**120th
since 1899**



森永製菓創業120周年
創業120周年事業の一つとして、鶴見工場内に見学施設「森永エンゼルミュージアム MORIUM」を新設（2020年春開館予定）

森永製菓グループ CSR の取り組みの流れ

森永製菓グループは、事業を通じて着実にCSRに取り組む体制を整備してきました。今後も、当社グループに対する外部からの要請や社会課題をしっかりと把握しながら、持続可能な社会の実現に向けて歩みを進めていきます。



2018年5月

CSR基本方針・CSR体系図を策定

さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、森永製菓グループが果たすべき責任や課題を認識・整理し、それらを踏まえたうえで、CSR活動の指針となるCSR基本方針・CSR体系図を下記のように策定しました。

CSR基本方針

森永製菓グループは「おいしく、たのしく、すこやかに」というビジョンのもと、「食」を通じて社会課題の解決と持続可能な社会の実現を目指し、ステークホルダーと連携・協働して、CSR活動を推進します。

1. 「食」を通じた価値の提供

私たちは食をお届けする企業として、食の安全・安心な品質を追求するとともに、食による心とからだの「おいしさ」「たのしさ」「すこやかさ」に資する価値をお客様に提供します。

2. 次世代育成

私たちは、未来を担う子どもたちの心とからだのすこやかな成長を応援し、次世代育成に貢献します。

3. 地球環境・社会への配慮

私たちは地球環境や社会に配慮し、循環型社会の構築と持続可能なサプライチェーンの形成を目指します。

「おいしく、たのしく、すこやかに」というビジョンのもと、食を通じ、社会課題の解決と持続可能な社会の実現に向けて取り組む姿勢、そしてそのために重点的に取り組むべき項目を3つにまとめ、明文化しました。

「食」を通じた持続可能な社会の実現



※CSR活動の基盤:「コーポレート・ガバナンス/コンプライアンス」
「ステークホルダーとの持続的信頼関係の構築」「人権尊重」
「持続可能なサプライチェーン・マネジメント」「働きがいと成長」

「おいしく、たのしく、すこやかに」というビジョンのもと、CSRの基本的な活動を基盤に、特に注力すべき3つの項目（「食」を通じた価値の提供、次世代育成、地球環境・社会への配慮）を柱として、ステークホルダーとともに持続可能な社会を実現する様子を表しています。

2017年8月

外部機関からの要請項目に関する分析

国際的ガイドラインやCSR評価機関等が重要視する社会的課題等と照らし合わせ、企業に対する外部要請項目を把握。

1

持続可能な社会



森永製菓グループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みの一環として、SDGsの目標達成に貢献していきます。

6

2018年9月～

従業員向け社内研修を開始

従業員の意識向上のために、本社及び支店・工場・研究所にて従業員向けのCSR研修を開始。



2018年1月

有識者ダイアログの実施

CSR活動を推進するうえで森永製菓グループはどうか、有識者の方々との意見交換を実施。

4

2017年12月

社内関連部門へのヒアリングの実施

アンケート結果や外部要請項目を整理したうえで、社内関連部門へのヒアリングを実施し、社内の取り組みの整理や課題の洗い出しを実施。

3

2017年9月

ステークホルダーアンケートの実施

森永製菓グループに対する期待や要請を把握するため、ステークホルダー計872名に「森永製菓グループのCSR」に関するアンケートを実施。

2



特集

食べる人とつくる人をつなぐ 森永製菓のチョコレート

森永製菓グループは2008年、カカオの生産国で暮らす子どもたちの支援を始めました。チョコレートを食べる人だけでなく、その原料であるカカオの国の子どもたちが安心して教育を受け、みんなが笑顔になれる社会の実現に向けて、歩みを進めています。

今、世界で何が
起きているの？

カカオの国の子どもたちを取り囲む社会課題 学校に行けない子どもたち

子どもたちが将来を自ら選択する能力を身に付け、自分らしく生きていくために、教育は重要な役割を担っています。しかし、チョコレートの原料「カカオ」がつけられる赤道近くの国々の中には、校舎・教室が不足または老朽化している他、授業に必要な物資や教師の数も不足している等、教育環境が十分に整っていない地域があります。また、教育の重要性に対する理解不足や貧困等の理由から、児童労働を強いられ、十分な教育を受けられずにいる子どもたちも…。現在、世界の6～17歳の子どもの6人に1人は学校に通えていないと報告されています。

学校に通えない世界の子どもたち

6人に1人 (6～17歳)*



*出典：UIS Fact Sheet No. 56 | September 2019

1チョコ for 1スマイル

あなたが食べると、もう一人がうれしい。

Action

世界中の子どもたちを笑顔にしたい。

「1チョコ for 1スマイル」を通じた支援活動

森永製菓グループは2008年から、年間を通して行う寄付に加え、特別月間に森永のチョコレートの対象商品1個の売上につき1円をカカオ生産国に寄付する「1チョコ for 1スマイル」活動に取り組んでいます。支援パートナーである、国際NGO「プラン・インターナショナル」と認定NPO法人「ACE」を通じ、ガーナやカメルーン等で、子どもたちの教育支援やカカオ農家の自立支援等を行っています。

10年間の活動で
集まった金額

225,668,644円

2019年3月末時点



支援地区(ガーナ)のカカオ豆を使用した商品(発売年)

2013年



2014年



2015年



2019年



※一部商品は終売しております。



チョコレートに関わる
全ての人に
笑顔をお届けしたい

菓子第一マーケティング部長
大橋 啓祐

森永製菓では、生産から消費までチョコレートに関わる全ての人に笑顔をお届けしたいと考え、2008年より「1チョコ for 1スマイル」キャンペーンに取り組んでいます。

私たちの取り組みによってカカオ農家の生活向上やアフリカの子どもたちが安心して学校に行けるように微力ながらお手伝いできればと考えています。



カカオ生産地域の
教育環境・貧困が
改善されました

ACE現地パートナーNGO
CRADA事務局長
ナナ・ブレンボン氏

森永製菓との素晴らしいパートナーシップは、ガーナのカカオ生産地域にたくさんの成功をもたらしてくれました。多くの子どもたちが学校に通えるようになり、就学率や出席率が大きく改善しました。カカオ農家は生産性を上げ、貯蓄ができるようになり、子どもの教育のために将来を見据えた意思決定ができるようになりました。みなさまのご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

Action

世界の子どもたちへの支援活動内容

ガーナ
共和国



【プラン】

2009～2011年：小学校やトイレ等を建設。18校3,507人の子どもたちに副教材や学用品を支給し、計600人以上の児童と教師に安全で快適な学習環境を提供。

2012～2016年：小学校や学校図書室を建設し、就学率が大きく向上。

【ACE】

2009～2018年：アシャンティ州の8村にて、児童労働に対する意識啓発、学校改善、貧困家庭への学用品支給、カカオ農家への農業技術向上支援、カカオ農家の互助会づくり等を支援。454人の子どもが児童労働をやめて就学。約4,000人の子どもの教育改善に貢献。

2018年～現在：アハフォ州2村での支援活動に加え、ガーナ政府とともに「チャイルド・レイバー・フリー・ゾーン」制度を構築中。

カメルーン
共和国



【プラン】

2009～2010年：小学校で新校舎や井戸、男女別のトイレ等を建設し、約290人の児童が快適な環境で教育を受けられるように。

2012～2014年：小学校・トイレ・井戸の建設、PTAメンバーへのトレーニング等を実施し、児童数が63%増加。

2015年～現在：小学校建設、教育支援、衛生トレーニング等が進行中。



Voice

支援活動パートナーや子どもたちからの声



ACE
Action against Child Exploitation

認定NPO法人ACE
事務局長/共同創業者

白木 朋子氏

森永製菓様からの継続的なご支援をいただくことで、ガーナの10村で活動を進めることができました。そのうち8村がプロジェクトを卒業し、住民が自力で児童労働を解決できる地域に生まれ変わりました。村長や学校の先生をはじめとするリーダーはもちろんのこと、親や子どもたちがパートナーとなり、学校や村が、子どもが暮らしやすい場所になるように取り組み続けています。みなさまの温かいご支援、本当にありがとうございます！



ガーナ
児童労働経験者

ジャネットさん

14歳でシングルマザーとなった私は、15歳から学び直して看護学校に進学しました。森永製菓、日本のみなさまとの出会いに心からの感謝と愛を捧げます。今後も支援が広がり、私と同じような境遇の子どものための支えになることを祈っています。

インドネシア
共和国



【プラン】

2011～2012年：小学校・中学校・トイレ・倉庫等を建設し、児童、生徒、教員450人が悪天候の中でも安心して授業に集中できる学習環境を整備。また、「自立的な学校運営」をテーマにしたトレーニングを実施し、成果を継続させていく体制を整備。

フィリピン
共和国



【プラン】

2009～2010年：小学校と保育所を建設。児童約1,000人が、安全で快適な環境で教育を受けられるように。その他、備品や教材、本棚や教師用のテーブル等を支給し、保育士や教師のトレーニングも実施。

エクアドル
共和国



【プラン】

2010～2011年：小学校・中学校・技術学校を改修または建設。計965人が快適な環境で授業を行えるように。
2014～2015年：小学校の新設・改修だけでなく、教室に電気が通るようになった学校も。またトイレを新築し、衛生環境を改善。



公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
広報マーケティング部

番場 慎也氏

国際NGOプラン・インターナショナルへは、キャンペーン初回から継続してご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。おかげさまで、これまで主に途上国の計66校、約12,000人の子どもたちの教育環境を改善してきました。持続可能な開発目標(SDGs)4で掲げられている「全ての子どもに教育を」に則り、これからも森永製菓株式会社様と商品を購入されるみなさまとともに、社会課題の解決に取り組み、より多くの子どもたちが笑顔で学べる世界を目指します！



カメルーン
小学校児童

マリーさん

学校に井戸やトイレができてうれしいです。井戸の水は飲み水や教室の掃除に使います。トイレの清掃の方法も習いました。この学校に通学したいと言っている子もいます。私はこの学校で勉強することができて、とても幸せです。ご支援ありがとうございました。



森永のCSR体系 3つの柱 ▶ 1



「食」を通じた価値の提供

私たちは、「食」をお届けする企業として、
食の安全・安心な品質を追求するとともに、食による心とからだの
「おいしさ」「たのしさ」「すこやかさ」に資する価値をお客様に提供します。

森永製菓グループの保有特許・商標件数



745件

(共同名義及び出願中を含む、2019年3月31日現在)

「ウェルネス領域」商品の売上高比率



45%

(国内菓子食品・健康部門に占める割合)

電話対応のお客様満足度



93.6%

(苦情をお申し出のお客様のうち
電話対応にご満足いただいた割合)



時代のニーズに沿った価値の提供

森永製菓グループは、創業以来120年間常に、時代やお客様のニーズにお応えしながら商品を製造・販売してまいりました。お客様や社会の多様化するニーズを読み解き、研究開発し、新たな価値をご提供することこそが食品メーカーとしての使命であると考えています。

社会にまだない価値の創造に取り組むとともに、長い間みなさまに愛されてきたロングセラー商品もさらに時代にフィットさせ、新しい価値と感動をご提供できる新商品として生み出しています。

仕事中にも
手軽に
ぶどう糖補給



大粒ラムネ

「森永ラムネ」は1973年の発売以来、子どものお菓子の定番として愛され続けてきました。近年ではラムネに含まれる「ぶどう糖」に注目が集まり、大人の方にも支持をいただくようになりました。そこで通常より粒を大きくして食べ応えをアップし、従来のボトルの容器からチャック付きのパウチ形態にして大人の方にもご満足いただけるよう「大粒ラムネ」を発売しました。

手軽に、
おいしく、
健康に



たべるシールド乳酸菌シリーズ

健康を求めるお客様のニーズにお応えし、「たべるシールド乳酸菌シリーズ」は誕生しました。タブレットやチョコレートのような身近なもので乳酸菌を摂ることができるとご評価いただいています。

シールド乳酸菌®*とは盾(シールド)のように外部からの敵を防御することをイメージして名付けられた乳酸菌(加熱殺菌菌体)です。

*「シールド乳酸菌」は森永乳業(株)の登録商標。

ホットケーキ
づくりを
手軽に!



もみもみホットケーキミックス

調理時間を短くという時代のニーズにお応えし、商品パッケージの袋の中で生地が出来るホットケーキミックス商品を開発しました。ボール・泡だて器・おたま・計量カップが不要で、つくったあとの片付けがラクちなため、忙しい方や親子での調理に人気です。時間短縮・余計な調理器具不要に加え、洗い物の水道代、洗剤の節約にも役立つことが評価され、2019JPC展「日本包装技術協会賞」を受賞しました。

Message

グループ会社での新たな挑戦 『テーブルを創るすべての人を幸せに』

SEE THE SUNは、個人・企業・業界の垣根を超え、“テーブルの上(消費者)”と“テーブルの裏(食産業)”にまつわるさまざまな社会課題解決を目指しています。

私たちが主に扱う「プラントベースフード(植物性食品)」は、健康意識の高まりや環境課題に対応した“ヘルシー”と“サステナビリティ”を兼ね備えた未来の食材です。世の中に食の価値を伝え、食の多様性の実現や、日本発の技術革新等、楽しくて持続可能な食の世界の実現を目指しています。



株式会社SEE THE SUN
代表取締役社長

金丸 美樹



品質への取り組み

私たちは、優れた品質と安全・安心の確保を最優先の課題とし、お客様に満足いただける商品を提供することを目指します。

品質保証体制について

お客様に安全・安心な商品をお届けするために、企画・開発から調達・生産・物流・販売に至る全過程にわたり、さまざまな手法・仕組みをとおして、安全性を軸とした品質を確保するための保証体制を構築しています。



1. 商品開発

商品開発に関係する全ての部門が品質保証上必要な確認を行うことが必要です。この確認事項を一覧表管理し、製造前に品質保証上のリスクを取り除く品質アセスメントという仕組みを運用しています。



商品開発会議



2. 原材料調達

常に信頼できるサプライヤーから購入することを基本に、原材料特性による課題点と対策の明確化、規格書の締結、工場点検、受入検査等を通じて、安全性の確保された原材料を調達しています。



3. 生産

当社商品の生産工場（自工場、グループ生産会社）では食品安全システムに関する国際認証規格「FSSC 22000」を取得し、お客様に安全・安心な商品を提供するための品質管理システムを運用しています。



高崎森永コントローラー室



4. 出荷検査

風味検査・外観検査・微生物検査・理化学検査等必要な検査を組み合わせて実施し、商品の品質を確認しています。検査で合格した商品のみを出荷します。



検査の様子



5. 輸送・保管・店頭管理

お客様の元に安全な商品をお届けするために、物流段階での倉庫・輸送会社やお得意先様に対しても、商品の品質を損なわないよう、ルール設定・指導協力をお願いをしています。

Message

安全で確かな品質の商品をお届けするために

安全で確かな品質の商品を提供することは食品企業の使命です。品質保証は地道で責任の重い仕事ですが、お客様からいっそうの信頼を得るために、日々の業務を確実に実行するとともに、関係各部署が連携し、品質保証体制の継続的な改善・強化に取り組んでいます。

品質保証部長 村山 安良



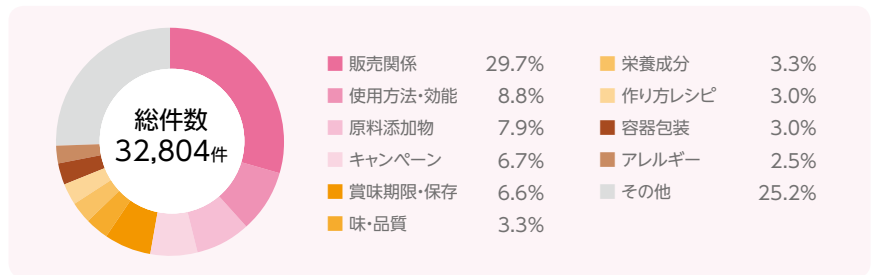
お客様満足のための取り組み

お客様相談室に寄せられた、お問い合わせやご意見・ご要望を全社で共有し、商品・サービスの改善に生かすとともに、ホームページのQ&Aにも反映し、お客様のスピーディな問題解決のサポートを支援しています。

心をこめた対応

お客様からはフリーダイヤル・メール・手紙等で日々たくさんの「声」が寄せられています。お客様の背景にある想いも受け止めて、ご満足いただけるよう、「誠実」「迅速」「事実の的確な報告」を心がけています。

▶ お問い合わせの内訳 (2018年度)



お客様の声の活用

お客様の「声」は全社で共有し、課題の早期発見、より良い商品・サービスのために活用しています。また商品に対するお褒めの声を「壁新聞」にして、各部署や全国の支店・工場に毎月配信しています。時には厳しい声もいただきますが、それも大切に受け止め、商品やサービスの改善に生かしています。改善された事案は、ホームページで一部ご紹介しています。



壁新聞100号 2018年11月発行

お客様の声を形にしました



? お菓子を開封したあととパッケージを捨ててしまったり、中身だけもらったときにアレルギー情報が分からない。

! > 個別包装にもアレルギー情報を表示しました。

アレルギー情報表示の改善

気軽にお問い合わせできる環境づくり

ホームページのQ&Aを随時更新し、内容の充実を図るとともに、お問い合わせの多い声は、「最近いただいたお問い合わせ」や「よくいただくお問い合わせ」に掲載しています。また2018年夏からは、国内最大級のQ&Aサイト「Yahoo!

知恵袋」の企業公式アカウントとして、お客様からの疑問・質問にお答えしております。特に若年層は、インターネットからの情報入手が多いことを受け、今後、ホームページやQ&Aサイトの充実によりいっそう力を入れていく予定です。

Message

お客様との信頼関係のために

お客様相談室の報告チームは、お客様からのお申し出に対し、原因調査の結果を報告する業務を行っています。お一人おひとりのニーズをくみ取り、納得性の高いご報告をすることで、森永製菓とお客様のより深い信頼関係を築くよう、お客様満足の向上に努めています。また、リスクの早期発見を意識し、関連部署と密に連携して、苦情減少につなげています。

お客様相談室 報告チーム



次世代育成

私たちは、未来を担う子どもたちの心とからだのすこやかな成長を応援し、次世代育成に貢献します。

2018年度菓子育プログラム参加人数



129,073人

2018年度自然体験活動参加人数



105人

1チョコ for 1スマイル累計支援



約2.2567億
万円
(2019年3月末時点)





社会貢献活動基本理念 直接体験をととして「子どもたちの心身の健全な育成を目指す」

子どもたちの 体験プログラムを提供 「森永エンゼルスクール」



子どもたちは、社会において人との関わりや、さまざまな経験を重ねることで成長していきます。しかし、現代ではITの発達等による社会環境の変化によって、直接的体験の場が減少しつつあります。

森永製菓では、創業者が明治・大正の子どもたちを西洋菓子によって栄養面から支えたいと願ったように、これからの未来を担う子どもたちの心とからだのすこやかな成長を応援するため、「食育体験」「自然体験」「スポーツ体験」の観点から、年齢ごとの成長過程や発達課題に応じた体験型のプログラムを「森永エンゼルスクール」として展開しています。

食育体験 ▶ P19へ

- 菓子育 対象：幼児～中学生・保護者
- キッズゼニア 対象：幼児～中学生
- 工場見学／出張授業 対象：小学生～成人

自然体験 ▶ P20へ

- エンゼルの森のようちえん 対象：未就学児と保護者
- チャレンジ！サイコー冒険隊 対象：小学校高学年

スポーツ体験 ▶ P20へ

- おととと体操 対象：未就学児

URL <http://www.morinaga-tenshi.com/>

社会・他企業・団体との連携

当社では、さまざまな社会課題への取り組みのために、価値観を共有するお客様や社会・行政・団体・他企業と連携し、寄付、協賛・協力、共同取り組み等を行っています。

- 1チョコ for 1スマイル
- ベルマーク運動
- 森永エンゼル財団
- 世界カカオ財団
- 他社参加型エンゼル・スマイル・プロジェクト
- 行政との取り組み





食育体験

菓子育

お菓子の価値は栄養補給だけでなく、人と人、心と心をつなぐコミュニケーションの役割であると考えています。オリジナル絵本「メルとマールのピクニック」を使ってワークショップを行い、絵本のキャラクターになりきることで、思いやりの心やお菓子の役割を学びます。

絵本に出てくる
重み物で盛りごっこ



お友だちに
ビスケットをあげよう!



絵本と同じ
ビスケットをもぐもぐ

キッズニア

お菓子工場パビリオンでは、ハイチュウの製造を通じて、働くことのたのしさや、ものづくりの工夫を体験するだけでなく、食品衛生やルール・マナーを学び子どもの自立性や社会性を養います。

KidZania
Tokyo



世界に一つだけの
ハイチュウです

安全・安心と衛生を
見て学ぶ体験



工場見学/ 出張授業

工場見学では、製造ラインの見学をとおしものづくりのたのしさや、食の安全・安心のための取り組みを目で見て実感していただけるよう工夫しています。また、工業生産をわかりやすく伝える出張授業「キャラメル教室」を小学校にて実施しています。



小山工場のキョロちゃん



キャラメルをとおして
工業生産を学習

参加者の 声

出張授業を体験

今回の授業で、キャラメルのざいりょうや工場で気をつけていることなどが分かりました。工場では、安全でおいしいキャラメルを作る工夫をしていることも分かりました。森永製菓のみなさん、これからも、おいしいキャラメルを作りつづけてください。

東京都 小学5年生





子どもも大人も
たのしかったです

伊賀・エンゼルの森のようちえん

2007年から当社所有地である伊賀・エンゼルの森で、自然とのふれあいをとおし、環境を守ることの大切さを学ぶ活動を行っています。未就学児向けのプログラム「森のようちえん」では、親子で森を探検し、野外炊事に挑戦しています。季節折々の自然の美しさや、自然の中で食べる食事のおいしさ等に親子で気付き、学ぶ機会を提供しています。



自然体験



森の中で
どんぐりを発見!

参加者の声

自然を五感で感じた

森の散策や崖登り、植物や生き物の観察など子どももとても楽しかったようです。自然の中でゆっくり過ごすという、普段はできない貴重な体験ができました。 森のようちえん参加者



透き通った湖で
カヌーに挑戦!

チャレンジ! サイコー 冒険隊

未来を担う子どもたちの心身の健全な育成のために実施してきた「リトルエンゼル育成プログラム」は、2019年で19回目を迎えました。本年は活動拠点を無人島から富士五湖近郊に変更し、「チャレンジ!サイコー冒険隊」を実施。全国から集まった32名の小学生が樹海や真っ暗な洞窟の探検やイカダづくり等冒険を満喫しました。キャンプ生活をおし、美しい自然を守るために自分ができることを考えたり、仲間と協力することの大切さを学びました。



真っ暗な洞窟の中を
探検しました



参加者の声



小学6年生 村田 幸優くん



冒険隊新聞を作りました



スポーツ 体験



おととと 体操

アスリートをサポートした経験を活かし、子どもの転倒予防体操をつくりました。この「おととと体操」が、転倒によるケガから子どもたちを守ります。

森永トレーニングラボ 浅井 利彰





森永のCSR体系 3つの柱 ▶3



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



12 つくばる責任 つぶさる責任



13 気候変動に具体的な対策を



15 陸の豊かさも守ろう

地球環境・社会への配慮

私たちは地球環境や社会に配慮し、循環型社会の構築と持続可能なサプライチェーンの形成を目指します。

2018年度の工場部門からのCO₂排出量



17.9 %削減

※2005年度比

2018年度の工場部門からの廃棄物排出量



18.5 %削減

※2005年度比

2018年度末の低排出ガス車導入比率



99.4 %

環境マネジメント

森永製菓グループ環境方針

森永製菓グループは、企業活動を通じて持続可能な循環型社会の形成を推進します。
また、環境マネジメントシステムの継続的改善を行い、企業活動のあらゆる面で環境に配慮した取り組みを行います。



1. 環境に関する法令、条例等の順守

国内外の環境に関わる法令や条例等を順守し、国際的な基準・規格等に対応します。



2. 製品に関わる全過程での環境負荷の低減

製品の企画・開発段階から生産・販売・廃棄に至るまでの全過程において、環境負荷を考慮し、その低減に努めます。



3. CO₂等の温室効果ガス排出量の削減

省エネルギーの推進およびエネルギー使用量の見える化等、カーボンマネジメントを実施し、CO₂等の温室効果ガス排出量を削減して、地球温暖化防止に努めます。



4. 省資源・廃棄物の削減およびリサイクルの促進

水資源および原材料等の有効利用に努め、廃棄物排出量の削減を図るとともに、リサイクルを推進します。



5. 環境汚染物質の管理および削減の促進

有害な化学物質等の環境汚染物質を適正に管理し、汚染防止と削減に努めます。



6. 生物多様性の保全および生態系の保護

生物多様性への理解を深め、生物多様性の維持・保全と生態系の保護に努めます。

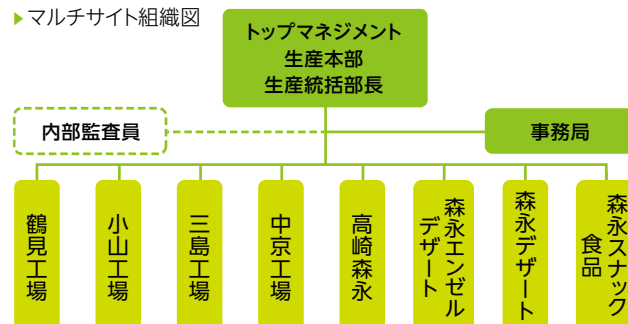
2018年5月改定

● 環境マネジメントシステム

1998年7月に森永製菓小山工場が日本の菓子業界で初めてISO14001(環境マネジメントシステムの国際規格)の認証を取得しました。さらに全工場及び生産関係会社にて順次認証を取得し、適正な管理により更新登録を行っています。2000年1月には、全社的な環境保全の取り組みを一元管理する部署「環境対策室」を設置しました。現在は生産統括部とコーポレートコミュニケーション部のメンバーによる環境統合事務局を設置し、工場環境管理委員会等と情報交換を図るとともに、マネジメントシステムの継続的改善と、環境負荷低減や生産性向上の取り組みを推進しています。2018年1月には、「森永製菓グループ生産事業所」として、マルチサイトによる認証を取得しました。

2018年度は、工場へ近隣の方より騒音に関するお問い合わせ・苦情のお申し出が1件ありました。その件については、速やかに対応するとともに、改善策を講じました。

▶ マルチサイト組織図



※2019年3月末現在

● マルチサイト方式によるISO14001認証を取得

従来は、7つのサイトが個別でISO14001:2004の認証を取得していましたが、ISO14001:2015への移行と同時に、7つのサイトを一つの組織として統合するマルチサイト方式により、本社環境統合事務局を含めた「森永製菓グループ 生産事業所」として、2018年1月23日にマルチサイト認証を取得しました。

高崎森永株式会社は、「森永製菓グループ 生産事業所」のマルチサイトへ2018年12月21日に追加登録しました。

▶ ISO14001認証取得状況

認証取得サイト名	所在地	初回登録日
森永製菓株式会社 小山工場	栃木県	1998年7月7日
森永製菓株式会社 中京工場	愛知県	2000年3月15日
森永製菓株式会社 三島工場	静岡県	2000年3月16日
森永製菓株式会社 鶴見工場	神奈川県	2000年7月26日
森永スナック食品株式会社	千葉県	2001年2月20日
森永エンゼルデザート株式会社	神奈川県	2001年3月20日
森永デザート株式会社	佐賀県	2001年3月20日
高崎森永株式会社	群馬県	2018年12月21日

● 環境教育・啓発

企業活動のあらゆる面で環境に配慮した取り組みを行うべく、従業員の環境意識高揚を図るとともに、教育・啓発を進めています。また、年に1度「内部環境監査員養成セミナー」を行い、各工場の内部環境監査員の育成と強化を行っています。



内部環境監査員養成セミナー

● 内部監査・外部審査

環境マネジメントシステムの適合性、有効性、及び効率化を目的として、従業員による内部監査と社外の審査機関による外部審査を毎年実施しています。環境統合事務局と認証工場の内部監査員による合同内部監査を2018年度は6つのサイトで実施しました。この監査では法規制順守やシステムの運用状況はもとより、環境パフォーマンスの向上と、システムの効率化も重視して行っています。



内部監査の様子



外部審査の様子

Message

本来業務と環境の取り組みを連動

2018年度は高崎森永株式会社も加わり、新マルチサイト体制となりました。本来業務で取り組むKPI*と環境への取り組みを連動させ、省エネ、原材料ロス削減といった環境負荷低減活動を推進しています。定例的に各事業所の事務局メンバーとTV会議にて連携を深め、好事例を積極的に取り上げ、スパイラルアップを図っています。

* Key Performance Indicator の略 (重要業績評価指標)

環境統合事務局長 大串 伸夫



環境に配慮した商品開発

原料、包装、輸送から廃棄まで、あらゆる面で環境負荷低減に配慮した商品づくりを目指し、廃棄を抑制する取り組みの実施や、廃棄時に減容化のしやすいユニバーサルデザインの導入等を進めています。

● プラスチックの減量化

14枚 チョイス

個包装の大きさをそのままに、重なり部分を少なくして、プラスチックフィルムの使用量を削減しました。

プラスチックの使用量

約**2.6**トン/年削減



● 紙の減量化

12粒 ハイチュウ

ハイチュウを包む紙の幅を縮寸しました。さらに製品をまとめるトレイの板紙も薄くすることで、全体の使用量を削減しています。

紙の使用量

約**6.8**トン/年削減



環境に
やさしい
パッケージ

● バイオマスプラスチックの使用

ミルクココア スティックタイプシリーズ

スティック袋の一部に植物由来のプラスチックを使用しています。石油由来の原料に比べ、温室効果ガスの排出量を、ライフサイクル全体で約1.1トン/年削減しました。



バイオマス
使用部位: スティック袋
使用原料: バイオマテックPET
No.110028
本製品のスティック袋には
環境に配慮したバイオマス原料を
一部使用しています。

● 紙製飲料容器「カートカン」の使用

森永のやさしい米麹甘酒

容器に「カートカン」を使用しています。カートカンとは国産材・間伐材を利用した環境にやさしい紙製容器です。



FSC® 認証紙への切り替えを推進

「おいしいコラーゲンドリンク プレミオ」の紙製容器には、FSC® 認証紙*を使用しています。今後、他の商品についても順次FSC® 認証紙への切り替えを推進し使用範囲を拡大していく方針です。

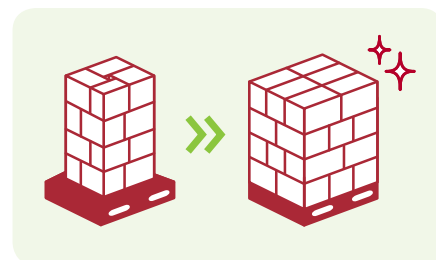


責任ある森林管理
のマーク

*責任ある森林管理をされた森林及びその他の管理された供給源からの原材料からつくられた製品に対する国際森林認証制度。

保管・輸送時の環境負荷低減の取り組み

商品の保管・輸送時に使用されるパレットに、なるべく多くの商品を積載できるように、段ボールケースの積み上げ方やケース寸法等を工夫して、無駄な空間ができない包装設計を行うことにより、保管・輸送に関わるエネルギー使用の抑制に努めています。



低炭素社会の実現

省エネルギーの推進及びエネルギー使用の見える化等、カーボンマネジメントを実施し、主たる温室効果ガスであるCO₂の排出量を削減することで、低炭素社会の実現を目指し、地球温暖化防止に向けて取り組んでいます。

CO₂排出量削減の取り組み

工場部門では省エネルギータイプの設備導入等によって省エネルギー推進を図り、CO₂の排出量削減につなげています。

目標 工場部門からのCO₂排出量を2020年度末までに、2005年度比 **15%**削減する。

● 2018年度の実績

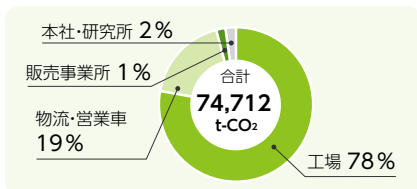
森永製菓4工場、生産関係会社5社の2018年度のCO₂排出量は58,133t-CO₂、製造量原単位は0.475 t-CO₂/tとなり、2005年度比で17.9%の排出量を削減できました。また、2017年度比では、製造量が増加したため、排出量は2.4%の増加、製造量原単位は1.0%の減少となります。また、海外生産拠点の2018年のCO₂排出量は7,569t-CO₂でした。

● CO₂排出量比率

全体的なCO₂排出量実績を把握し、見える化を推進することで排出量削減に取り組んでいます。森永製菓4工場、生産関係会社5社

▶ CO₂排出量比率

からの2018年度CO₂排出量は、全体の78%を占めています。

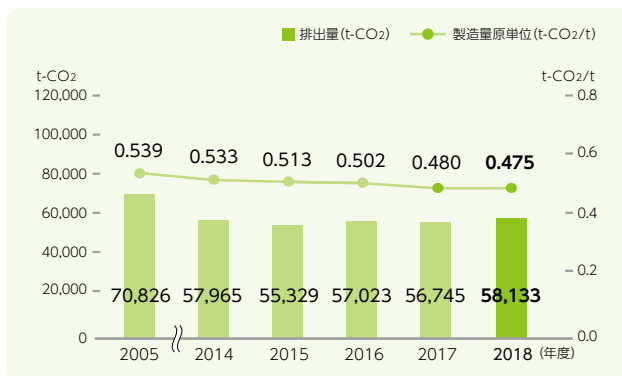


工場部門からのCO ₂ 排出量(総量)	2020年度末までの目標	2018年度の実績
	-15% (2005年度比)	-17.9% (2005年度比)

製造量原単位	-1.0% (前年度比)
--------	---------------------

海外生産拠点	CO ₂ 排出量 7,569t-CO₂
--------	---

▶ CO₂排出量と製造量原単位の推移



省エネルギーへの取り組み

● エアコンプレッサーの集約・合理化

小山工場では高効率の新型コンプレッサーへの更新と同時にその制御方法やエア供給経路等を見直し、合理化を進めています。また、使用量の「見える化」による適切な運転管理を行い、省エネルギーに努めています。



物流工程における主な取り組み

森永製菓では物流の効率化と環境対策の観点から、同業他社との連携による共同輸配送に取り組んでいます。共同輸配送による積載率の向上は、輸配送車両の削減となり、大気汚染物質の排出量削減につながります。

省エネルギー法での特定荷主として、「輸配送時のCO₂排出量」の算出・把握を行っており、2018年度は13,526t-CO₂の排出がありました。

循環型社会の形成

循環型社会の形成のため、目標を掲げて、廃棄物排出量の削減、リサイクル促進に取り組んでいます。

廃棄物排出量削減の取り組み

継続的な生産性向上活動や工程ロス削減等の本来業務の改善により、廃棄物排出量削減に取り組んでいます。

目標 工場部門からの廃棄物排出量を2020年度末までに、2005年度比 **25%**削減する。

● 2018年度の実績

森永製菓4工場、生産関係会社5社からの廃棄物排出量は9,716tで、2005年度比で18.5%削減できました。2017年度比では1.3%の減少、製造量原単位は0.079t/tで前年度比4.6%減少しました。継続的に取り組んでいる生産性向上活動の成果が表れています。

工程ロス削減等の本来業務の改善により、動植物性残渣の発生抑制効果も出ています。今後も、廃棄物排出量削減に向けてさらに活動を強化していきます。また、海外生産拠点の2018年の廃棄物排出量は515tでした。

工場部門からの 廃棄物排出量 (総量)	2020年度末までの目標	2018年度の実績
	-25% (2005年度比)	-18.5% (2005年度比)
製造量原単位	-4.6% (前年度比)	
海外生産拠点	廃棄物排出量 515t	

廃棄物リサイクルの促進

● リサイクル率向上の取り組み

森永製菓グループでは全工場においてリサイクル率向上に向けて取り組んでいます。2018年度の森永製菓4工場、生産関係会社5社のリサイクル率は排出量の99.96%

食品廃棄物リサイクルの取り組み

森永製菓の2018年度食品リサイクル率は79.0%となり、前年度比約0.6ポイント低下しました。

工場では廃棄物の「発生抑制」に努めていますが、発生した食品廃棄物は主に、飼料化、肥料化、及びメタン発酵原料等に利用することでリサイクルしています。製品廃

▶ 2018年度 森永製菓4工場、生産関係会社5社の廃棄物排出実績

	2017年度	2018年度		
	排出量[t]	排出量[t]	構成比[%]	前年度差異[t]
汚泥	2,024	1,717	17.7	-307
廃油	7	10	0.1	3
廃プラスチック類	525	546	5.6	21
紙屑	1,938	2,020	20.8	82
木屑・繊維屑・ゴム屑	14	15	0.1	1
動植物性残渣	4,827	4,925	50.7	98
金属屑	394	422	4.3	28
ガラス・陶磁器屑	2	1	0.1	-1
その他	112	60	0.6	-52
合計	9,843	9,716	100.0	-127
リサイクル量	9,840	9,712	リサイクル率:99.96%	

となりました。今後も適正な分別を行い、資源の有効活用を図るとともに、有価物化を推進していきます。

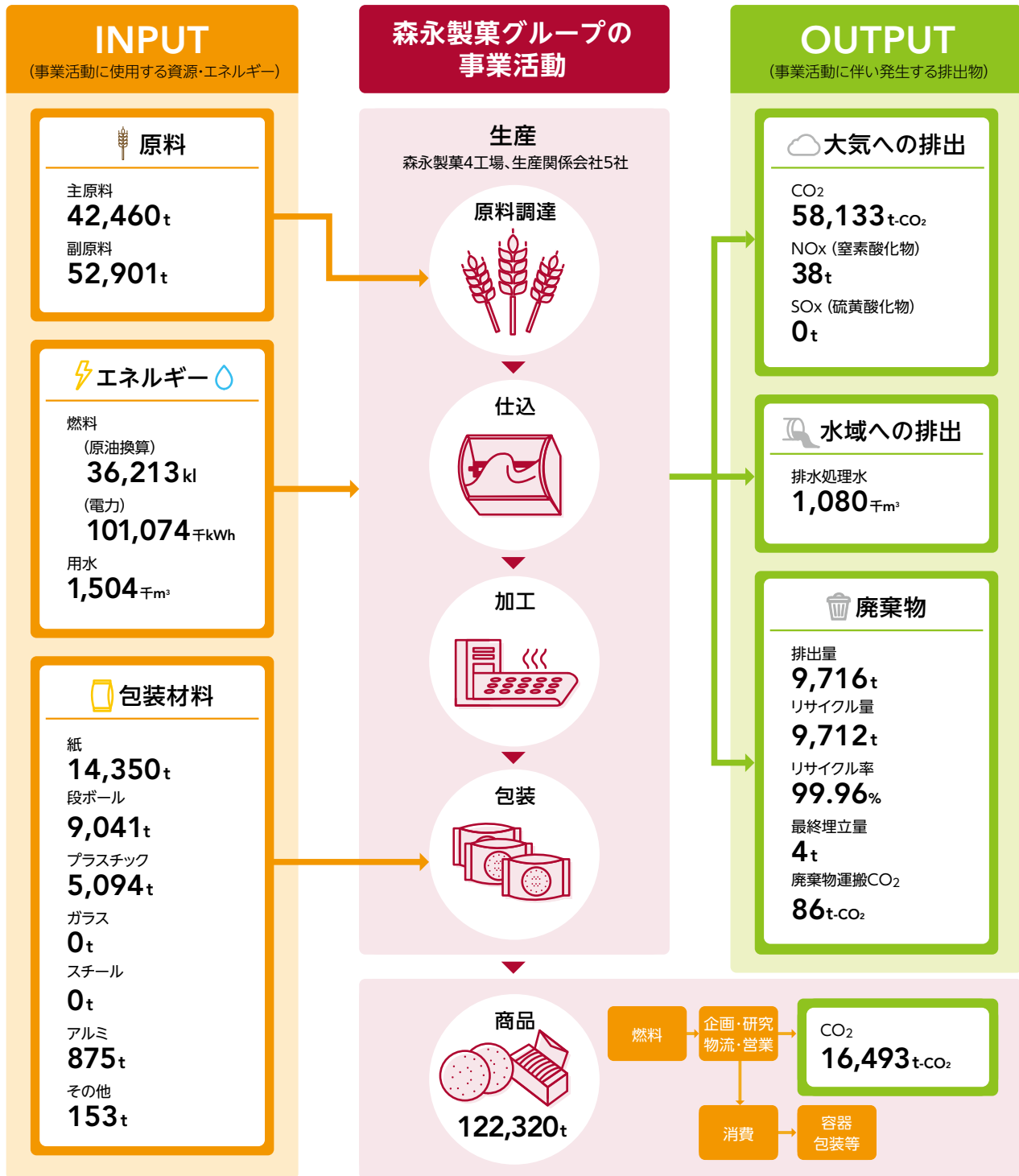
廃棄物 リサイクル率	2018年度の実績
	99.96%

棄物等は、その特性から、リサイクルが困難な部分もありますが、今後も製品特性に合わせた食品廃棄物再生業者の選択等を実施し、リサイクル化を推進していきます。

食品廃棄物 リサイクル率	2018年度の実績
	79.0%

事業活動における環境負荷 (2018年度)

事業活動ではエネルギーや原材料の使用、廃棄物の排出等、商品の製造過程を中心にさまざまな環境負荷がかかります。私たちは、一つひとつの環境負荷に配慮し、環境にやさしい商品づくりを続けています。



環境汚染物質の管理・削減促進

大気汚染等の公害や自然環境・生態系の破壊を防ぐため、環境汚染物質の管理・削減促進の取り組みを行っています。



大気汚染物質の抑制

- 工場部門の全てのボイラーを都市ガス燃料仕様に変更し、NOx、CO₂排出削減を推進。
- 工場敷地内のアイドリングストップを各お取引先様の方々にも要請。
- 営業車の環境負荷低減を推進。2018年度末の低排出ガス車導入比率は99.4%。



水質汚濁防止

- 排水処理設備の運用に関して、自主管理基準を設定。
- 設備の「運転管理手順書」の見直しや教育訓練の実施。
- 設備のメンテナンス強化、更新・改善のための投資の実施。



化学物質への対応

- 「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR法)」に従い「化学物質管理手順」を作成。
- 工場部門ではISO 14001のマネジメントシステムを活用した、安全で適正な管理の徹底と排出量の削減を推進。



フロン排出抑制

- 各事業所で空調機や冷凍機等の点検・保全を強化。
- 設備更新時に適切なフロン回収を実施するとともに、環境に配慮した冷媒への転換を推進。

生物多様性への取り組み

持続可能な社会の実現のために、生物多様性の保全および生態系の保護に努めています。

「森永製菓グループ調達方針」の制定

生物多様性の維持・保全と生態系の保護を目的とし、地球環境に配慮した原材料の調達活動に取り組むことを盛り込んだ「森永製菓グループ調達方針」を制定しています。この方針をお取引先様にもご理解いただき、お互いに持続可能な社会の実現に貢献するための調達活動に取り組んでいきます。

伊賀・エンゼルの森自然体験

自社保有地である三重県「伊賀・エンゼルの森」では、同県の環境教育NPOと連携して、子どもたちに自然とともに生きる知恵や環境を守ることの大切さを伝えています。



働きがいと成長

全従業員が個を活かし合いながら活躍する会社へ

森永製菓では、経営戦略の一つとして、ダイバーシティ推進を掲げています。ダイバーシティ推進の目的は、従業員一人ひとりが個の強みを発揮しながらイキイキ働くこと、そして、互いに尊重し合い、知の交流を図りながらイノベーションを生み出すことです。そのために、健康経営、人材育成、ワークスタイル変革等、さまざまなことに取り組んでいます。



健康経営の取り組み

企業活力の源泉であり、最も重要な財産である従業員とその家族の健康保持・増進を支援することで、一人ひとりの人生を充実させ、働きがいのある会社になることを目的に、健康経営を推進しています。

2018年4月には「森永製菓健康宣言」を制定し、健康推進委員会のもと、従業員の「健康」意識・知識の高揚の機会を提供し、「働き方改革」と連動させ、自らの多様な能力を最大限発揮できる環境を整え、従業員のこころとからだの健康を積極的にサポートしています。

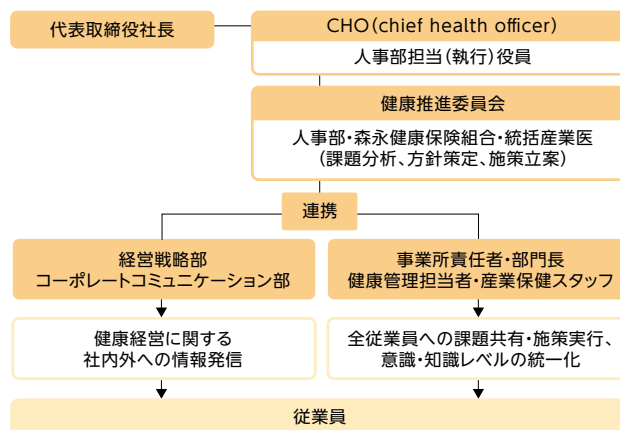
● 森永体操スタート

2018年10月より森永トレーニングラボ考案の「森永体操」を全事業所で毎日実施しており、職場でできるちょっとした体操で肩こり軽減、腰痛予防等に役立っています。



森永体操に取り組む様子

▶ 健康経営推進体制図



● 健康経営優良法人2019に2年連続認定

経済産業省・日本健康会議が進める健康経営優良法人認定制度*で、「健康経営優良法人 2019 (大規模法人部門)」に2年連続で認定されました。



*従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する「健康経営」について、特に優良である法人を顕彰する制度。

従業員一人ひとりの成長をサポートする人材育成の取り組み

森永製菓において、人材育成の強化は、当社が目指すビジョン・ミッションの実現において、重要なテーマであると位置づけられています。

戦略的な人材育成を推進するにあたっては、中期経営計画の基本方針に則り、森永製菓の従業員として求められる能力要件に則して、階層・部門・スキル別に研修・教育の機会を提供し、従業員の成長をサポートしています。

また、さらなる従業員の能力のベースアップを効果的に行うべく、個々の成長課題を明確にしたうえで育成のPDCAサイクルを現場で適切に実行する『新しい人材育成の仕組み』を構築し、2018年10月より本社部門から先行導入しています。



研修の様子

女性が働き続けられるための環境整備

森永製菓では、2001年に「女性が能力を発揮し、活躍できる組織をつくる」という目標を掲げ、女性活躍推進がスタートしました。

以降、育児関連制度の拡充を中心とした「両立支援」によって、女性従業員が長く働き続けられる環境が整えられ、男女の平均年齢・勤続年数の差はなくなりました。

2007年からは6期連続で「子育てサポート企業」とし

て国からの認定を受けており、2017年9月よりプラチナくるみん※の認定基準を継続的に達成しています。(行動計画期間：2015年4月～2019年3月)



※「くるみんマーク」を既に交付されており、高い水準の取り組みを行っている企業を対象とする認定。

ワークスタイル変革

● 活躍支援のための新しい制度や仕組みの導入

森永製菓では、2017年より、約1,000名の従業員を対象に、時間や場所に縛られず柔軟に働くことのできるテレワーク制度やコアタイムなしのフレックス勤務制度を新たに導入し、より自律的かつ多様な働き方が可能となりました。これからも、多様な背景をもつ従業員が、それぞれにワークとライフの時間を充実させ、成長意欲をもちながら能力を発揮できるよう、活躍支援のための環境を整えていきます。

2018年度 育児休業・介護休業の取得状況※

男性 **7**人 女性 **13**人 ※年度末時点

2018年度 テレワーク対象従業員の利用率※

78.7% ※2018年度通期実績

エンゼルファミリーデーの取り組み

エンゼルファミリーデーとは、従業員の家族の職場訪問を受け入れ、家族を交えて従業員同士が交流することで、互いの理解を深めてもらう取り組みで、2019年で6回目を迎えました。今年度は79名の参加者が職場見学や社員食堂でのランチタイム、トレーニングラボでのかけっこ教室等を体験し、楽しい一日を過ごしました。



人権尊重

人権方針

森永製菓グループは、人権尊重は企業の重要な社会的責任であると考え、「森永製菓グループ人権方針」に基づき、従業員一人ひとりが人権を尊重し、一切の差別やハラスメント行為のない職場づくりを進め、さらにサプライチェーン全体での人権配慮に取り組みます。

森永製菓グループ人権方針

森永製菓グループは、国際社会の一員として基本的人権を尊重し、人権侵害に加担しない誠実な企業活動を行います。

1. 人権の尊重と差別の禁止

基本的人権を尊重し、人種・性別・国籍・宗教・思想・年齢・身体的特徴等を理由とする、あらゆる差別を行いません。

2. ハラスメントの禁止

パワーハラスメントやセクシャルハラスメントなど、人間の尊厳を傷つける行為を一切行いません。

3. 安全・衛生への配慮

安全・衛生に配慮し、働きやすい職場環境の確保に努め、従業員の基本的人権を尊重します。

4. 良好な労使関係の構築・維持

結社の自由、団体交渉実施等の従業員の基本的権利を尊重し、良好な労使関係を構築・維持します。

5. 児童労働・強制労働の排除

あらゆる企業活動において、児童労働や強制労働、その他不当な労働慣行を認めません。

2018年5月制定

従業員の人権への配慮

森永製菓グループでは、人権配慮の考え方に基づき、コンプライアンス研修において、パワーハラスメント、セクシャルハラスメントの啓発・予防を目的とした教育を継続的に実施しています。

新入社員研修、新任管理職研修等の階層別研修及び全事業所における単独企画のコンプライアンス研修（年1回以上）、従業員専用の研修動画のウェブ上での閲覧等幅広く取り組んでいます。



研修参加の従業員数

1,561人

コンプライアンスアンケートの実施

毎年、全従業員を対象にコンプライアンスアンケートを実施し、当社グループのコンプライアンス状況の把握に努めています。中でも、ハラスメント行為は特に重要な項目として詳細に調査をしています。アンケート結果のサマリーは従業員に公開して、当社グループの状況を共有しています。

また、この結果をもとに各事業所へのヒアリングや意見交換を行い、問題解決のための対策立案を行い、風土改善に向けて、積極的な活動を行っています。

アンケート回答率

93.1%



持続可能なサプライチェーン・マネジメント

調達方針

森永製菓グループは「森永製菓グループ調達方針」を策定し、お取引先様との公平・公正・透明な関係を築き、連携して社会・環境に配慮した調達活動を行うことによって、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

森永製菓グループ調達方針

森永製菓グループは、食の安全・安心と持続可能な社会の実現のため、お取引先様との公平・公正な関係を構築し、社会・環境に配慮した調達活動に取り組みます。

1. コンプライアンス・社会規範等の順守

法令、社会規範等を順守し、森永製菓グループ行動憲章に則り、健全な調達活動を行います。

2. 品質・安全性の確保

お客様の安全・安心を最優先とし、品質の確保に努めた調達活動を行います。

3. パートナーシップの強化

お取引先様と「顧客感動」「お客様重視」を共通目的として協働し、相互に発展できる関係性を築きます。

4. 公平・公正な取引

品質、価格、納期、技術力、および社会や環境面への取り組みを総合的に勘案し、公平・公正な取引に努めます。

5. 人権・労働環境・安全への配慮

「森永製菓グループ人権方針」を踏まえ、人権・労働環境・安全に配慮した調達活動を行います。

6. 地球環境への配慮

「森永製菓グループ環境方針」を踏まえ、地球環境に配慮し、持続可能な社会の実現に向けた調達活動を行います。

2018年5月制定

お取引先様とのパートナーシップの強化

● 原料産地でのコミュニケーション

食の安全・安心と持続可能な社会の実現のためには、調達から生産、物流にいたるビジネスパートナーとの信頼に基づく協力関係が必要です。

2018年には協力会社情報交換会、材料サプライヤー情報交換会において、「森永製菓グループ調達方針」を表明し、サプライチェーンにおける社会・環境に配慮した調達活動への協力をお願いしました。

持続可能な調達の一環として、パーム油の問題にも取り組んでいます。当社商品の使用量調査の他、マレーシアのパーム農園、油脂精製工場の視察やシンガポール油脂会社とのディスカッションを行い、生産地やRSPO認証※について情報を収集し、問題の重要性の認識を高めました。

※熱帯林の保全や、そこに生息する生物の多様性、森林に依存する人々の暮らしに深刻な悪影響を及ぼすことのないよう、非営利組織「持続可能なパーム油のための円卓会議」(Roundtable on Sustainable Palm Oil)の定める一定の基準を満たしていることを示す認証制度。



協力会社情報交換会



マレーシアでパーム農園を視察

収穫したパームの果実

ステークホルダーとの持続的信頼関係の構築

ステークホルダーのみなさまのご意見に耳を傾け、その要請に応じていくことで、信頼関係を築きます。そして、企業として環境や社会課題に真摯に向き合い、ステークホルダーのみなさまとともにCSR活動に取り組んでいきます。

株主・投資家のみなさまとのコミュニケーション

経営の情報を分かりやすくタイムリーにお届けするとともに、株主のみなさまへの継続的な安定的配当を確保してまいります。

情報開示に関する基本方針

森永製菓株式会社は、法令の順守はもとより、高い倫理観をもって企業活動を行うとともに、経営の情報開示と透明性確保に努め、株主・投資家のみなさまに対しタイムリーな情報提供に努めます。会社法・金融商品取引法等関係諸法令、証券取引所の定める業績の概況及び「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」に従って、情報ならびにその他の重要な情報を正確かつ迅速にホームページ上に公開いたします。

● 株主総会・決算説明会

株主総会では株主のみなさまに事業に対する理解をよりいっそう深めていただくことを常に心がけています。また、証券アナリスト、機関投資家のみなさまを対象に、5月と11月の年2回、決算説明会を開催しています。



株主総会招集通知

説明会では経営トップから決算状況や今後の戦略、業績の見通し等をご説明するとともに、さまざまなお質問にお答えしています。決算説明会にて使用した資料と説明会当日の様々をおさめた動画はIRサイトでも公開しています。

● 証券アナリスト、機関投資家向け工場見学会

よりいっそう事業活動への理解を深めていただくことを目的として、証券アナリスト、機関投資家のみなさまに向けた工場見学会を開催して



高崎森永株式会社

います。2018年度は高崎森永株式会社にお招きし、高い品質の製品を製造する設備や工程を見学いただいた後に、改善活動の取り組みについて活発な質疑がなされました。

● IRサイト

株主のみなさま、及び証券アナリスト、機関投資家のみなさまに向けた情報発信の強化を目的に、当社IRサイトにて業績情報や重要情報の開示を行っています。



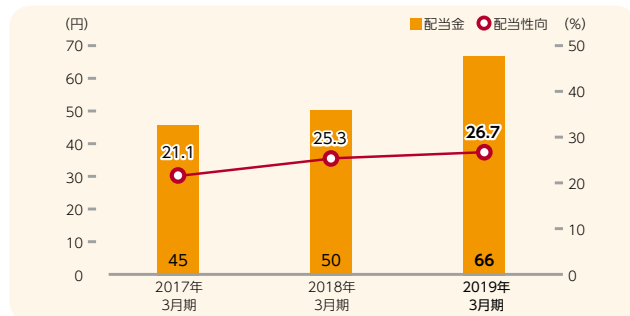
2018年度は2018中期経営計画発表に伴い、外部環境の変化や各領域の取り組みについて、より理解を深めていただけるよう内容の充実を図りました。

URL <http://www.morinaga.co.jp/company/ir/>

● 株主還元

森永製菓は経営基盤の強化と持続的成長により、業績に応じた安定的な配当を実現することを基本としています。

▶ 1株あたり配当金 / 配当性向



● ESG対話プラットフォームへの参加

森永製菓は、企業と投資家等とを結ぶコミュニケーションの場を提供するために環境省が行っている実証事業「環境情報開示基盤 (ESG対話プラットフォーム)」に参加しました。

そして、ESG対話プラットフォームによる情報の開示・対話を実践しながら習得するために開催された「ステップアッププログラム」にも参加しました。

地域社会とのコミュニケーション

「楽寿園」環境整備 (三島工場)



三島市が進める「ガーデンシティみしま推進事業」の一環で、JR三島駅前にある「楽寿園」内の環境整備の支援として、花苗の植え付けや、園内の清掃・整備を行いました。

イルミネーション (高崎森永)



国道17号に面した敷地にイルミネーションを設置し、道行く人の目を楽しませています。2013年から、12月中旬～1月中旬に点灯しています。

納涼祭 (鶴見工場、中京工場)



鶴見工場



中京工場

納涼祭では、従業員による飲食の屋台やおたのしみ袋の販売、ゲーム等、子どもから大人まで大勢のお客様におたのしみいただいています。

大和市クリーンキャンペーン (森永エンゼルデザート)



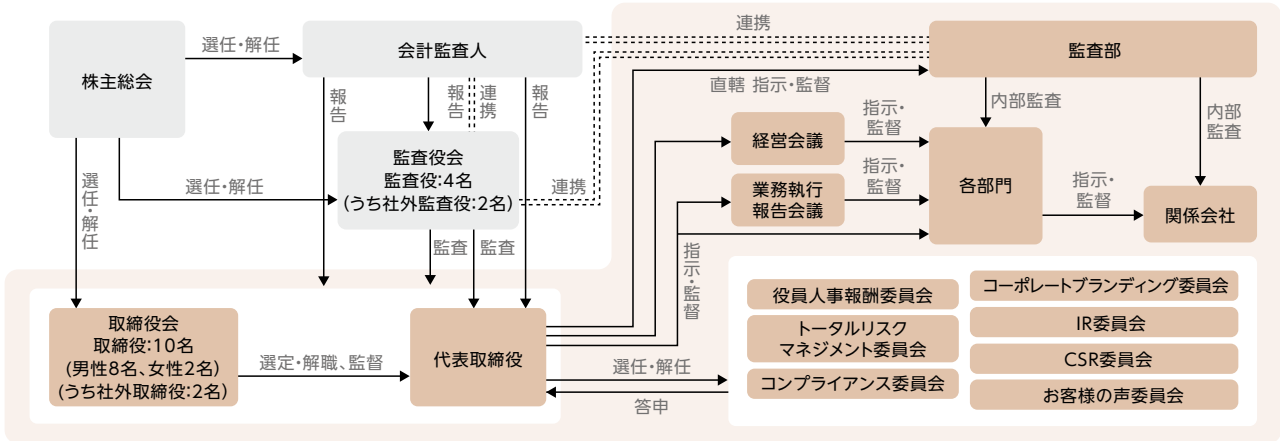
5月と11月に実施される大和市クリーンキャンペーンに毎年参加しています。事業所の周囲を一周してゴミ拾いを中心とした清掃活動を行っています。

コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

森永製菓は、コーポレート・ガバナンスが重要な経営基盤であるとの認識に立ち、経営の健全性及び効率性の向上、財務内容の信頼性の確保、情報開示、法令順守ならびに各ステークホルダーとの信頼関係の強化を基本方針としています。

▶コーポレート・ガバナンス体制図



(2019年3月31日現在)

取締役会・役員体制

取締役会は独立性の高い社外取締役2名を含む計10名（男性8名、女性2名）で構成され、原則として毎月1回定期開催し決定事項の決議、重要な経営方針・戦略の策定及び決定、業務執行の監督等を行っています。

期開催し決定事項の決議、重要な経営方針・戦略の策定及び決定、業務執行の監督等を行っています。

監査体制

監査役は社外監査役2名を含む計4名（男性4名）で構成され経営の透明性を確保するとともに、経営に対する監視、監査機能を果たしています。

する監視、監査機能を果たしています。

内部統制

企業価値の最大化ならびに企業の持続的発展を図ることを目的に、内部統制システムの強化及び経営の効率化を図り、業務を適正に執行するとともに、監督及び監査の実効性の確保に努めています。職務の執行が適正

に行われるために、取締役会は実効性のある内部統制システムの構築と法令及び定款等の順守体制の確立に努めるとともに、監査役が当該システムの有効性と機能を監査する体制としています。

Message

森永製菓の“すこやかな”成長のために

社外取締役に着任して1年、ますます森永製菓グループの将来の成長を確信しています。企業の継続的な価値の最大化を目的とした当社のコーポレート・ガバナンスは、企業が健全に成長し、建設的な議論や意思決定がなされるために設計されています。従業員の方々の熱い思いや努力が発展的にさらなる成長につながるよう、今後も社外取締役として客観的な視点でサポートしていききたいと思います。



社外取締役 鷹野 志穂

コンプライアンス・リスクマネジメント

森永製菓グループの役員・従業員一人ひとりが、「森永製菓グループ行動憲章・行動規準」の順守を周知・徹底し、コンプライアンス体制を構築しています。

コンプライアンス推進について

森永製菓グループは、「コンプライアンスはあらゆる事業活動において、全てに優先する課題である」との意識のもと、2001年に「森永製菓行動憲章・行動規準」を制定しました。2008年には「森永製菓グループ行動憲章・行動規準」に改定し、グループ共通のコンプライアンス経営体制をとっています。

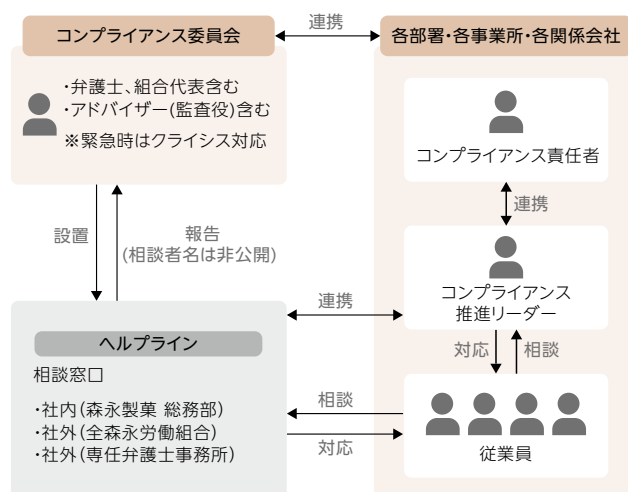
また、「コンプライアンス委員会」を設置し、コンプライアンス経営の構築や推進を行っています。コンプライアンス違反等の通報及びコンプライアンスについての相談窓口として、「ヘルプライン」を設置しています。社内、労働組合、外部弁護士の3カ所に相談窓口を設けており、実効性の強化に努めています。

リスク管理方針・体制

森永製菓グループでは、事業活動に潜在するリスクに対応するため、内部統制システムの一環として2001年に「トータルリスクマネジメント規程」を制定し、想定されるリスクを分類・評価し、平常時における予防策を実施しています。

「トータルリスクマネジメント規程」の中では「自然災害クライシス対応要領」をはじめとする各種要領を策定し、クライシス発生時に事業の早期再開を図るための対応を定めています。2017年度からは、こうしたBCP（事業継続計画）を一歩進めてBCM（事業継続マネジメント：災害や事故で被害を受けても事業を中断させない、若しく

▶コンプライアンス経営体制図



は中断させても可能な限り短期間で再開させる継続的改善)にも取り組みはじめました。

クライシスが発生した場合は、状況を速やかに評価・判断し、対策本部の設置、情報開示等、必要な対応をとるとともに、原因究明と再発防止対策を行うこととしています。

反社会的勢力に対しては、「不当要求防止責任者」を設置して毅然と対応することを表明するとともに、関係行政機関等からの情報収集に努め、有事の際にはこれら機関と緊密に連携をとり、組織全体で速やかに対応することとしています。

URL <http://www.morinaga.co.jp/company/about/governance.html>

CSR用語集

CSR

Corporate Social Responsibilityの略。企業が利益追求だけでなく、株主・お客様・お取引先様・従業員等の利害関係者（ステークホルダー）に配慮しながら果たすべき責任のこと。

ESG投資

企業が持続的成長を目指すうえで重視すべき3つの側面、環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)に配慮している企業を重視・選別して行う投資のこと。

サステナビリティ

社会と地球環境全般における「持続可能性」。企業のサステナビリティは、利益を上げるだけでなく、将来にわたり環境や社会的側面においても貢献し続けていくことを指す。

コンプライアンス

法律や規則等を順守し、倫理を尊重すること。企業における相次ぐ不祥事をきっかけに重視されるようになった概念で、日本語では「法令順守」と訳されることが多い。

SDGs

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」のこと。国際社会の課題を解決し、持続可能な社会をつくるための17の目標と169のターゲットで構成される。

ISO26000

ISO(国際標準化機構)が2010年11月に発行した社会的責任に関する国際規格。国や地域、組織規模に関係なく、あらゆる組織で社会的責任を実践し、持続的発展へ貢献をしていくための手引き。

健康経営

従業員の健康の維持・増進が企業の生産性や収益性の向上につながるという考えのもと、従業員の健康管理を経営的な視点から戦略的に実践すること。

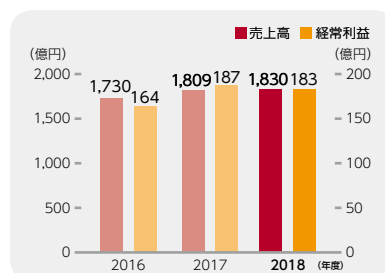


森永製菓株式会社の概要

会社概要 (2019年3月31日現在)

社名	森永製菓株式会社 (MORINAGA & CO., LTD.)
代表者	代表取締役社長 太田 栄二郎
本社所在地	〒108-8403 東京都港区芝5-33-1
創業	1899(明治32)年8月15日 森永西洋菓子製造所 創業
設立	1910(明治43)年2月23日
資本金	186億1千万円
事業内容	菓子(キャラメル・ビスケット・チョコレート等)、食品(ココア・ケーキミックス等)、冷菓(アイスクリーム等)、健康(ゼリー飲料等)の製造、仕入れ及び販売
上場証券取引所	東京証券取引所
従業員数	1,334名(平均年齢41.9歳)

▶業績推移(個別)



事業紹介

菓子食品事業



菓子食品事業は、「ミルクキャラメル」「森永ビスケット」「チョコボール」「ダース」「ハイチュウ」「森永ココア」等、主力のロングセラーブランドを軸に新たなおいしさと食シーンを創造しています。同時に、「バイクド技術」等新しい味わいの創出と、健康機能を兼ね備えた高カカオチョコレートや「甘酒」等、「健康」の切り口を取り入れた商品開発と情報発信も進めています。人々の健康で豊かな毎日に貢献し、笑顔とコミュニケーションの輪をひろげる取り組みに力を入れています。

環境マネジメントシステム

企業等が、自主的に環境保全に関する取り組みを進める際に、環境方針や目標を自ら設定し、達成に向けて取り組んでいく仕組み。

CSR調達

調達先の選定や調達条件の基準設定にCSRの観点を取り入れること。また、CSRの取り組みを、調達先の企業にも求めること。

地球温暖化

地球の平均気温が長期的に上昇する現象。産業活動が活発になり、CO₂等の温室効果ガスの排出量が増えたことが原因とされている。今後、地球温暖化に伴う海水温の上昇による氷河等の融解によって、海面がさらに上昇すると予測されている。

サプライチェーン マネジメント

原材料の調達から最終消費者に至るまでの供給プロセス全体を一つのビジネスプロセスとして捉え、情報を共有・連携し、プロセスの全体最適化を図る経営手法のこと。

循環型社会

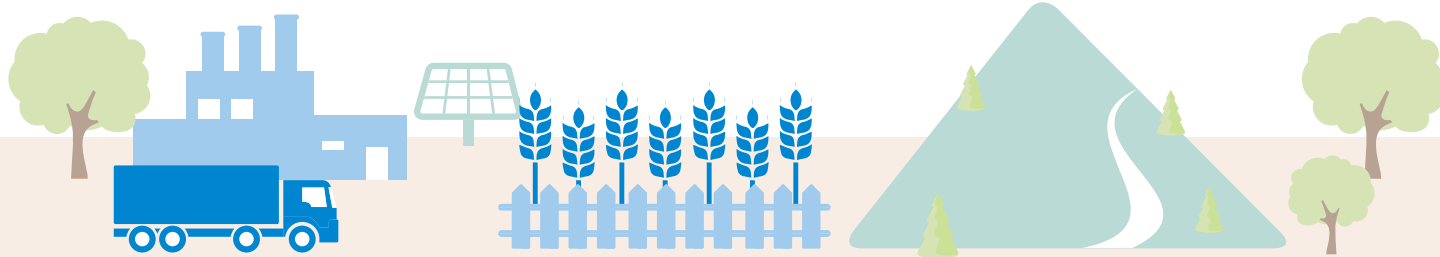
廃棄物の発生を抑制し、廃棄物の中でも有益なものは資源として循環利用し、適正な廃棄物の処理を行うことで、環境負荷の低減を図る仕組みを持つ社会。大量生産・大量消費・大量廃棄の時代から、廃棄物ゼロを目指す社会づくり。

RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議)

2004年に設立された非営利組織。持続的なパーム油生産に求められる法的、経済的、環境・社会的要件として、8つの原則と43の基準を定める。

生物多様性

生態系、または地球上に多様な生物が存在していること。「生物の多様性に関する条約」では、「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」という3つのレベルで多様性があるとされている。



冷蔵事業



冷蔵事業は、業界トップクラス商品である「チョコモナカジャンボ」、独自の技術をベースとした「アイスボックス」、森永製菓らしさを追求した主力商品の数々、また菓子食品技術を有しているからこそその強みを生かした新商品等、それぞれの商品とおしてお客様へ価値と感動を提供しています。

健康事業



森永製菓では「健康」を成長分野の一つとして掲げ、事業全体をおとして新たな商品と価値の創造に取り組んでいます。健康事業では、ゼリー飲料のトップシェア商品「i nゼリー」を中心に、アスリートだけでなく健康維持や美容を意識する多くの方々に向けて、い

つでも手軽に栄養を摂取できるような商品づくりや情報発信を行っています。また、トップアスリートの身体能力・精神力をトレーニングや栄養指導、サプリメントでサポートするトレーニング施設の運営も行っています。

「天使の健康」は高齢化やストレス社会を背景に、幅広い世代向けすこやかな毎日をサポートする健康補助食品を開発・販売するブランドです。菓子食品技術を生かしたおいしく継続しやすい独自性のある健康補助食品を通信販売により、お客様一人ひとりに直接お届けしています。

海外事業



海外事業は、商品輸出や技術提携により優れた品質と確かなおいしさの日本ブランド「MORINAGA」として各国に進出しています。また、森永製菓グループとして米国・中国・台湾・タイに販売及び製造拠点を構築し「ハイチュウ(HI-CHEW)」を中心に新たな市場の獲得と販売網拡充に取り組み、海外での事業拡大を進めています。



森永製菓株式会社

〒108-8403
東京都港区芝5-33-1

このレポートに関するお問い合わせ先

コーポレートコミュニケーション部
CSRグループ

TEL 03-3456-0143
FAX 03-3769-6129



UD FONT
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。